

# カフェレター



2021年3月30日発行  
発行:たかみや人権福祉センター  
☎57-1330

1月は行き、2月は逃げ、3月もあっという間に過ぎました。例年のとおりです。

皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか？先日、長年の懸案事項であった、洋服ダンスの整理をしました。「いつか着るだろう。」「痩せたら着れる」「流行おくれだけど、高かったし、全然痛んでいないから、ゴミに出すのは心が痛む。」とか、なんだかんだの理由をつけて捨てることのできなかつた洋服たちを、ついにお嫁に出しました。私が選んだ片づけの方法は「古着でワクチン」というプロジェクトへの参加です。不要になった衣類、バッグ、靴、服飾雑貨を便利に片付けることができ、加えて国内外の社会貢献につながるお片付けサービスの取り組みです。こういったものには、えてして悪質な団体が存在するので、ここは要注意で、十分に調べました。環境省の取り組み紹介のページにも掲載されており、正しい心でやっているのだろうと判断、チャレンジしてみることに。申し込みをすると、25kgまでOKの丈夫な紙の袋が送られてきます。それに思いっきり服を詰めて、封を閉じ、宛名ラベルを貼って、配送業者に電話をすると、指定の日時に取りに来てくれるのです。特に面倒なことはありませんでした。後日、クレジットカードの口座から3300円が引き落としされます。「えっ、ただじゃないの？」ただじゃないんです。配送料、途上国の子どもたちがポリオワクチンを打てるようにするための寄付、そしてこの活動を持続可能にするための費用が含まれているそうです。燃えるゴミに出せば、ゴミ袋代だけで済む、高いなあ。しばらくそう思いました。でも、着たくないだけで、十分着られるものだし、ゴミとして燃やされるのは……私は着たくないけど、誰かが使ってくれるなら……それに、貧困で苦しんでいる子どもたちの少しでも役に立つなら……3300円の節約は、それほど難しいものではない、と結論付け、試してみることにしました。どこかで誰かの役に立っていれば嬉しいことです。

私の洋服ダンスはすっかり風通しが良くなり、今、実際に着る服ばかりで、探すのが楽になりました。「いつか着る服」は、「絶対に着ない服」と言い換えることが出来るかもしれないですね。

物のあふれる日本では、毎年約33億着もの良質な衣類がゴミとして大量に捨てられている現状、かたや世界に目を向けるとワクチンで予防可能な病気で20秒に一人の子どもが亡くなっているそうです。



結構大きい袋です。運べなくなるので、玄関で詰めます。



これくらい詰めてみようかな。

今回入れたもの  
コート、ジャケット 5枚  
ズボン 18本  
スカート 1枚  
シャツ 38枚  
ひざかけ 1枚  
を入れました。



出来ました。佐川急便が集荷に来てくれます。

コロナウィルスのワクチン接種が始まりましたが、まだまだ状況は変わりませんね。

医療従事者の方々への感謝の気持ちを忘れず、日々の生活の中に、感染対策をしっかりと定着させることを心がけねばなりません。

**まちかどカフェ**はどうしたのか、とても悩んでいます。人と距離をとることや、黙食、が推奨され、飛沫が飛ぶようなことはダメ、この状況下で再開するのは難しいかな……とスタッフ間で話しています。

何か、皆様のご意見やお考えなどございましたら、是非お寄せください。

## 女子力！プロジェクト

女性がたくさんいると会議が長くなる。とんでもない波紋を広げましたよね、この言葉。

そうでしょう、そうでしょう。きっとそうなんでしょうね。でも、一説によると、一番生活に密着しているのは女性で、現実の生活や子育て etc...に関わることで言いたい大切なことがいっぱいある、でも、それを言える機会がなかなか無いので、話し出すと長くなるんだ、そんな風に分析してる人もいました。言えてるかもですよね...

三歩下がって控えめにしている女性が大好きな男性の方々には、本当に申し訳ない、とんでもない女子会を立ち上げてしまいました。この町を誰もが住みやすく、幸せに生きることのできる町にする為に、私たちの思いや持っている力を活かすことができないだろうか、そんなささやかな(あるいは悲痛な.....)願いをエネルギーに語り合いを始めています。

こんな活動をしておられる方がいるんだ、こんなことを思って日々の生活を営んでおられる方がいるんだ、そんな人達とのステキな出会いの時間です。

例えば、子ども達を自然の中で遊ばせ、育てたい、と言う思いから「森のあそび場すつくすく」を開催しておられる方、「なりわい合宿」という市のイベントに参加したことで、安芸高田市には、ステキな生き方をされている方が、何人もいらっしゃることに気づき、そんな人にもっと出会いたいと思っておられる方、それから、お母様の介護をしながら二人で「道草食堂はらっぱ」と言う移動販売を始められた、というステキな女性がいらっしゃるというお話も聞かせていただきました。

小学生、高校生の方も参加して下さっていて、私たち世代が縛られている固定観念が無い意見には、教えてもらうこと、気付かされることもあり、未来を創る彼らの思い、もっと聴いてみたいと思いました。

さて、どこにつながるのか、何につながるのかは、わかりません。

何かが見つかるといいな。そんな思いで、「語り合う会」を続けて、と言うか、つくって行きたいと考えています。

興味のある方は、お声がけください。



この子は殺処分を免れて、こちらの家庭に迎え入れてもらった子です。穏やかに、幸せにいらしている。そんな子はわずかですよ。

身勝手な人間が生み出す、悲しい運命の子達は後を絶ちません。

この子にも、言いたいことはたくさんあるのではないのでしょうか。

どなたでもウェルカムですので、**子どもさんや犬さん**も参加してくれました。  
色んな人と作る社会。  
色んな人の思いを聴きたいですね。